NEC

NEC Expressサーバ
Express5800シリーズ

Express5800/InternetStreamingServer
(DSモデル/GSモデル)

Microsoft Windows 2000 Server/ Microsoft Windows 2000 Advanced Server

インストレーションサプリメントガイド

ONL-3019aE-ISS_DS/GS-014-99-0305

商標について

Windows Server 2003はMicrosoft® Windows® Server 2003 Standard Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® Server 2003 Enterprise Edition operating systemの略称です。
Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 Server operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略称です。
Windows NTはMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 4.0の略称です。
Windows XPはMicrosoft® Windows® XP Professional operating systemの略称です。
Windows MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition Operating Systemの略称です。
Windows 98はMicrosoft® Windows®98 operating systemの略称です。
Windows 95はMicrosoft® Windows®95 operating systemの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

このたびは、NECのExpress5800シリーズをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書では、Express5800シリーズ「Express5800/InternetStreamingServer (DSモデル/GSモデル)」で使用するオペレーティングシステム「Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版」または「Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server 日本語版」をインストールする方法について記述しています。
(Express5800シリーズのセットアップ(OSのインストールを含む)は添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「シームレスセットアップ」機能をお使いになることをお勧めします。)

本書での内容は、Windows 2000やその他、使用するオペレーティングシステム(OS)の機能や操作方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。OSに関する操作や不明点については、各OSのオンラインヘルプなどを参照してください。

本書は上記に示すモデル専用の説明書です。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の中には他のモデル用の説明書が含まれている場合もあります。本書を参照してインストールをする前に、お使いになっているモデルを確認してください。

本文中の記号について

本文中では次の3種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

重要　**ユーティリティや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。**

チェック　**ユーティリティや装置を取り扱う上で確認をしておく必要がある点を示します。**

ヒント　**知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。**

ソフトウェア使用条件

添付のCD-ROM内のソフトウェアを使用するにあたって、添付のソフトウェアのご使用条件をお読みになり、その内容についてご確認ならびにご承諾ください。

ユーザーサポートについて

ソフトウェアに関する不明点や問い合わせは別冊の「ユーザーズガイド」に記載されている保守サービスセンターへご連絡ください。また、インターネットを使った情報サービスも行っておりますのでご利用ください。

http://nec8.com/

『NEC 8番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。

概　要

Express5800シリーズの再セットアップをするときは、「シームレスセットアップ」と「マニュアルセットアップ」の2つの方法があります。本書では「マニュアルセットアップ」の手順を説明します。

それぞれのセットアップについて以下に説明します。（Express5800シリーズのセットアップは、「シームレスセットアップ」を使ってセットアップすることをお勧めします。）

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows　2000）、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
シームレスセットアップの方法については「ユーザーズガイド」で説明しています。

また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressサーバをセットアップすることができます。
「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。
事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。（セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます）。セットアップパラメータFDの作成方法については、「ユーザーズガイド」で説明しています。

マニュアルセットアップ

Windows 2000やディスクドライバ、ネットワークアダプタドライバのインストール、および保守用パーティションの設定や、各種ユーティリティなどをひとつひとつ手作業で行う方法です。

セットアップ後にシステム固有のモジュールを適用するNECアップデートモジュールのインストールを行ってください。

注意事項

マニュアルセットアップを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

システムのアップデートについて

Express5800のシステム構成を変更したときは、必ずExpress5800に添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って、システムをアップデートしてください。詳しくは、10ページを参照してください。

Service Packの適用について

- Express5800では、Service Packを適用することができます。本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

  ［NEC 8番街］　http://nec8.com/

- Windows 2000 Service Pack 3を適用する場合は、「システムのアップデート」で行ってください。装置に「Windows 2000 RUR3対応(Service Pack 3)差分FD」および「Windows 2000 RUR3対応(Service Pack3)インストール手順書」が添付されている場合がありますが、差分FDおよび手順書は使用せず、破棄するか、装置に添付されている他の媒体と異なった場所に保管してください。

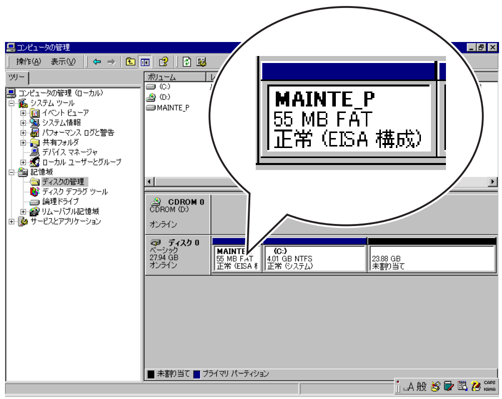
  万一、使用しても、次のようなメッセージが表示されセットアップは続行できません。

  <セットアップメッセージ>

  > このWindows 2000 RURは、この装置には対応していません。
  > ご使用の装置を確認してください。

ディスク構成について

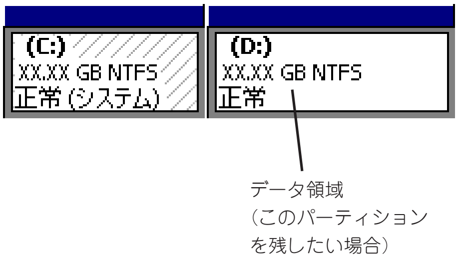
ディスク領域に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残したい場合は、次の点について注意してください。

- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択してください。



MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

インストールに必要なサイズ	= 1000MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **一つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、最大で「2048MB+12MB」です。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

1000MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。
ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り振ることで解決できます。

(1) インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズを設定する。

(2) ユーザーズガイドの「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

(ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合はインストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズでインストール後、新しいディスクを増設してください。)

マニュアルセットアップ

マニュアルセットアップでWindows 2000 Server 日本語版またはWindows 2000 Advanced Server 日本語版をインストールする手順を次に示します。以下、これらのOSをまとめて「Windows 2000」と呼びます。
シームレスセットアップでインストールをする場合は、ユーザーズガイドを参照してください。

重要 セットアップを始める前に必ず2ページの「注意事項」を参照してください。パーティションの作成やダイナミックディスクへのインストールに関する説明があります。

マニュアルセットアップに必要なもの

作業を始める前に次のディスクや説明書を用意します。

- □ EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- □ Microsoft Windows 2000 Server 日本語版(CD-ROM)またはMicrosoft Windows 2000 Advanced Server 日本語版(CD-ROM)
- □ Windows 2000 Service Pack(CD-ROM)
- □ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER(または1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚)
- □ ファーストステップガイド
- □ ユーザーズガイド

インストールの準備

インストールを始める前に「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。

Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERは、次の2通りの方法で作成することができます。

- **EXPRESSBUILDERでExpressサーバを起動して表示されるメニューから作成する**

  Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成するために使用できるコンピュータがExpressサーバしかない場合は、この方法で作成します。ただし、ExpressサーバがWindows 2000で動作できる場合は、この後の「マスターコントロールメニューから作成する」でも作成することができます。

  次の手順で作成します。

1. **3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。**
2. **Expressサーバの電源をONにする。**
3. **ExpressサーバのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。**
4. **CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。**

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. **「ツールメニュー」から「サポートディスクの作成」を選択する。**
6. **「サポートディスク作成メニュー」から「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を選択する。**
7. **画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。**

   「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

● **マスターコントロールメニューから作成する**

マスターコントロールメニューは、次のオペレーティングシステム上で起動します。

— Windows Me/98/95
— Windows XP/2000
— Windows Server 2003
— Windows NT 4.0

上記のオペレーティングシステムで動作しているコンピュータを使用できる場合は、マスターコントロールメニューからWindows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することができます（Expressサーバも含まれます）。

次の手順で作成します。

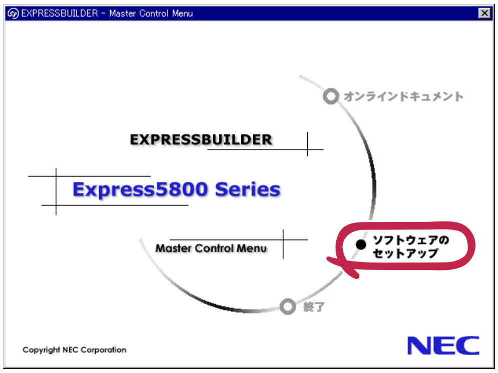
1 **3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。**

2 **Windows Me/98/95、またはWindows XP/2000、Windows Server 2003、Windows NT 4.0を起動する。**

3 **CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。**

マスターコントロールメニューが起動します。

4 **［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、［OEMディスクの作成］－［for Windows 2000］の順にメニューを選択する。**



ヒント

右クリックで現れるポップアップメニューでも同様の操作ができます。

5 **画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。**

「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows 2000のインストール

次の手順に従ってインストールします。

1 **システムの電源をONにする。**

2 **ExpressサーバのCD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。**

3 **Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。**

重要

ハードディスク上に起動可能なOSがインストール済の場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示がされている間に<Enter>キーを押してください。起動可能なOSが存在しない場合は不要です。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、Expressサーバが再起動します。

Windows 2000のセットアップ画面が表示されます。画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。もう一度システムの電源をONし直してから始めてください。

4 **画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。**

チェック

<F6>キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあらわれません。

5 **以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。**

Setup could not detrmine the type of one or more mass storage
devices installed in your system, or you have chosen to
manually specify an adapter.Currently, Setup will load
support for the following mass storage devices.

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

6 **Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブドライブにセットし、<Enter>キーを押す。**

SCSIアダプタのリストが表示されます。

7 **[Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)]を選び、<Enter>キーを押す。**

手順5の画面に戻ります。

8 **装置にディスクアレイコントローラが装着されている場合およびGSモデルで本体標準装備のディスクアレイコントローラ(HostRAID)を利用している場合は、SCSIアダプタリストから以下のいずれかを選択し、<Enter>キーを押す。**

- N8103-64を装着の場合
  [LSI Logic MegaRAID Enterprise 1600 RAID Controller Driver]
- N8103-80を装着の場合
  [MegaRAID SCSI 320-1 Controller Driver]
- N8103-81を装着の場合
  [MegaRAID SCSI 320-2 Controller Driver]
- HostRAIDを使用している場合
  [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver 1.00 For Windows 2000/XP]

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。

インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

重要

- **セットアップの途中で、Windows 2000をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある55MBの領域は、Express5800特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、55MBの領域を確保させたくない場合は、「D＝パーティションの削除」で削除してください。**
- **100000MB(100GB)以上の領域を持ったディスクにWindows2000をインストールする場合、デフォルト値のパーティションサイズ以外では、5桁(99999MB)以下の値しか設定できません。**

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。

ヒント

フロッピーディスクおよびCD-ROMを取り出す必要はありません。ただし、フロッピーディスクを取り出さない場合は、CD-ROMも取り出さないでください。

以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

システムのアップデート　－Service Packの適用－

システムを再起動後、必ず以下のようにシステムをアップデートしてください。

重要

次の場合も必ずシステムのアップデートを行ってください。

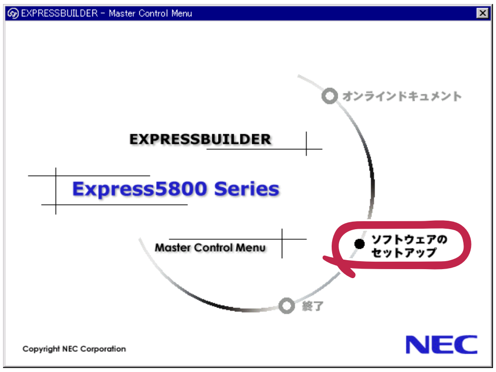
- システム構成を変更した場合（システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は［いいえ］をクリックし、システムをアップデートしてください。）
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- CPUを増設した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  (Service Pack関連の Express5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのFDを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません。）

1 管理者権限のあるアカウント（administrator等）で、システムにログオンする。

2 CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。

3 ［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、［システムのアップデート］をクリックする。



ヒント

右クリックで現れるポップアップメニューでも同様の操作ができます。

画面のメッセージに従って作業をすすめ、Service Packを適用してください。［コンピュータの再起動］ダイアログボックスが表示されます。

4 ［コンピュータの再起動］をクリックしてシステムを再起動させる。

5 システムのシャットダウン開始後、ただちにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出す。

ドライバのインストールと詳細設定

本体標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. **CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。**
2. **スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。**
3. **「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC64¥PROSET¥WIN2K」ディレクトリ内の「PROSet.msi」アイコンをダブルクリックする。**

   [Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。
4. **[Next]をクリックする。**
5. **[I accept the terms in the licenese agreement]を選択し、[Next]をクリックする。**
6. **[Typical]を選択し、[NEXT]をクリックする。**
7. **[Install]をクリックする。**

   [InstallShield Wizard Conmplated]ウィンドウが表示されます。
8. **[Finish]をクリックする。**
9. **システムを再起動する。**

   以上で完了です。

ネットワークドライバ

標準装備の2つのネットワークドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされますが、 それぞれの転送速度とDuplexモードの設定が必要です。
以下の手順に従って設定してください。
また、この項では、ネットワークドライバの再インストール手順も説明します。

ヒント

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

転送速度とDuplexモードの設定手順

1. **スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。**

2. **[Intel PROSet]アイコンをダブルクリックする。**

   [Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. **リスト中の「Intel(R) 82546EB Based Dual Port Network Connection」をクリックして選択する。**

4. **[リンク設定]タブをクリックし、[オートネゴシエーション]を「無効」に設定し、[強制速度およびデュプレックス]の項でをHUBの設定と同じ値に設定する。**

   重要

   「1000/Full」の場合、[オートネゴシエーション]を「有効」に設定し、[ネゴシエート可能速度およびデュプレックス]の項で「1000Mbps 全二重」のみをチェックし、そのほかの項目のチェックを外して設定してください。

5. **リスト中の「Intel(R) 82546EB Based Dual Port Network Connection #2」をクリックして選択する。**

6. **[リンク設定]タブをクリックし、[オートネゴシエーション]を「無効」に設定し、[強制速度およびデュプレックス]の項でをHUBの設定と同じ値に設定する。**

   重要

   「1000/Full」の場合、[オートネゴシエーション]を「有効」に設定し、[ネゴシエート可能速度およびデュプレックス]の項で「1000Mbps 全二重」のみをチェックし、そのほかの項目のチェックを外して設定してください。

7 **[Intel PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。**

8 **システムを再起動する。**

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

再インストール手順

OSのインストール後にネットワークドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

1 **OSを再起動し、ログオンする。**

[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

2 **[次へ]をクリックする。**

3 **[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンが選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。**

4 **[場所を指定]チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、[次へ]をクリックする。**

[新しいハードウェアの検出ウィザード]の別ダイアログボックスが表示されます。

5 **EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、アダプタに合わせてドライバの格納場所を指定し、[OK]をクリックする。**

[Intel(R) 82546EB Based Dual Port Network Connection]の場合

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC64¥PRO1000¥WIN2K]

6 **[次へ]をクリックする。**

7 **[完了]をクリックする。**

再び[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。上記2~7の手順を参照し、インストールを行ってください。
ネットワークドライバ再インストール後、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。前ページを参照し、再度、設定し直してください。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-84/103)を使用する場合は、本書のネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、EXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8104-84/103 のドライバ
<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC64¥PRO1000¥WIN2K

グラフィックスアクセラレータドライバ

以下の手順に従って標準で装備されているグラフィックスアクセラレータドライバをインストールしてください。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを搭載している場合は、そのボードに添付の説明書に従ってドライバをインストールしてください。

1. **CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。**
2. **スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。**
3. **「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥W2K」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。**

   メッセージに従ってインストール作業を進めてください。

   途中、「デジタル署名が見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。
4. **CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。**

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときに障害からより早く、確実に復旧できるようセットアップをしてください。詳細な手順についてはユーザーズガイドをご覧ください。